



教師海外研修概要

JICA の開発教育支援

グローバル化が進む現代では、地球規模で多様な課題を抱えています。

貧困・環境・人権などの課題を抱える地球が、より持続可能な方向へシフトするにはどうしたらいいのでしょうか。

持続可能な開発のための教育(ESD)にも挙げられているように、その解決に向けての鍵の1つは「教育」にあると考えられています。

相互依存が深まる世界において、開発途上国が直面する多様な課題を自分たち自身の問題として考え、その解決のために自ら行動に移すことのできる人間を育成するために、開発教育・国際理解教育への関心はますます高まるばかりです。

JICA 関西では、開発途上国における技術協力事業、資金協力事業で培った経験、人材やネットワークを活用し、国際協力出前講座、JICA 関西訪問、教師海外研修、開発教育指導者研修等の開発教育支援事業を関西地域で広く実施し、地域での開発教育・国際理解教育を支援しています。教師海外研修は、その事業の一つです。



教師海外研修とは……

I. 研修目的

開発教育・国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場での授業等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらおうことを目的として実施しています。

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などの教員に、JICA が協力を行っている開発途上国での 10 日程度の海外研修に、参加していただきます。

帰国後は、海外研修で得た経験を、参加した先生自身が自分の教室で子ども達に伝えています。さらに、その経験をそれぞれの地域において、広く発信していただき、開発教育・国際理解教育の実践者として活躍いただくこともねらいとしています。



II. 教師海外研修の流れ

※（ ）内の日程は 2013 年度の日程です。2014 年度以降の日程は HP をご確認ください。

